西浮通信

令和４年１１月３０日
ＮＯ．３８６
東京都北区立西浮間小学校
校長　小島　みつる

「思いやり」ということ

校長　小島　みつる

１２月「師走」となりました。「師走」の語源には諸説があり定かではありませんが、

「１２月は日頃落ち着いている学校の先生も忙しく走り回る月」というところからきたという説もあります。「日頃落ち着いている」という点については疑問ですが、「師走」にはやはり多忙感を感じてしまいます。１２月の呼び方には他にも極月（ごくげつ）、限月（かぎりのつき）春待月（はるまちづき）、暮古月（くれこづき）などがあります。私はこのなかで「春待月」という呼び名が好きです。私たちも、来る春に向けた備えをこの１２月にしたいものす。そのために、今年をしっかりと振り返り、よかったこと、よくなかったことなどを確認しておくことが大切です。子供たちにも、この一年を謙虚に振り返り、自分自身を見つめ、次へ生かすように指導しているところです。

学校は子供たちにとって、「社会」そのものです。この小さな社会の中で、子供たちは単なる知識としての学力だけではなく、大きな社会でよりよく生きていくために、社会の一員として仲間と共同・協働できるために学習力やコミュニケーション能力などを身に付けていきます。集団の中で学ぶ意味はそこにあります。日本の学校教育は、世界でも希有な、「集団活動や集団生活を通して」子供たちの生活丸ごとを学びの場にして関わり合って学ぶ教育が行われています。

さて、今年一年を振り返り、ご家庭での子供たちの人間関係にかかわる成長度はいかがでしょうか？思いやりをもって人と接するようになった、優しい言葉遣いをするように気を付けていたなど、成長が見られたでしょうか？「思いやり」は、小学校に入り、人と（特に友達と）接する経験を積んでいくうちに、自分と違う考え方の人がいることに気が付くようになることで育まれていきます。また、「思って」いるだけでは相手に通じない、言葉で、態度で、行動で示すことが「思いやり」だということを体感していきます。しかし、物分かりのよすぎる大人とばかりいると、大人から「されてばかり」でそのような経験をしないまま成長し、「思いやりの心」も育たないまま、大きくなってしまったりします。

つまり、子供が、「思いやりがない」人間に育つ要因として、

◇人と接触する機会が少ない。（少子化・一人遊び）
◇見習うモデルが「自己中心的」である。（周りの大人が自己中心的）
◇見習うのに良いモデルが身の回りにいない。（孤独）
◇したいことは何でもやれる。欲しい物は何でも手に入る。（甘やかし）
◇子供のトラブル全てに親が口出しをする。（過干渉）
◇生活の場での言語環境が好ましくない。（大人の乱暴な言葉遣い）

などがあるかもしれません。特に、子供にとって言語環境は重要です。「てめぇ！」「シネ！」などの言葉が家庭を含め日常的につかわれることが無いようにしたいものです。私たち大人も、今年一年自分自身が「自己中心的」でなかったか、「乱暴な言葉」を投げかけていなかったか等々反省し、来年は（も）「思いやりの態度」で人と接し、子供に良いお手本を示してあげたいですね。

今月１５日（木）～１７日（土）の３日間、３年に一度の展覧会を開催します。展覧会のメインの作品は個人作業で作成した絵、工作、家庭科作品等ですが、本校では学校のみんなで共同・協働することを大切に、全校共同作品も展示しています。土曜日は学校の授業はなく、展覧会の公開のみですので、ぜひ、お子さんと一緒にお子さんの制作秘話を聞きながら、ご鑑賞ください。　（展覧会は木・金も1日公開しています）